

平成 30 年度・応用生物科学部 自己点検評価書

項目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	応用生物科学部の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）
<p>基準4 学生の受入</p> <p>4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。</p> <p>4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。</p>	<p>入学者選抜の改善に繋がった取組</p> <p>アドミッション・ポリシーと入試方法および学力の3要素の関連性をHP上で公表している。入試方法の観点から検証を行い、アドミッション・ポリシーに沿った入学試験を実施していることを確認した。</p> <p>編入学試験、推薦入試で利用するマニュアルについて検証し、改訂を行った。</p> <p>○応用生物科学部の入学者数は入学定員の1.05倍であり適正な数である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・HP 公開ページ ・推薦入試・編入学マニュアル ・H31 選抜概況 	
<p>基準5 教育内容及び方法</p> <p>5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程）</p> <p>5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）</p>	<p>単位の実質化を図るための取組</p> <p>初年次セミナーの検証結果を応用生物科学部シンポジウム（2019.3.4開催）において公表し、情報を共有するとともに、改善に向けたディスカッションを行った。</p> <p>昨年度検討した高度専門職業人養成像を元にした本学部の将来構想として、名古屋大学の農学分野と連携し、農学の教育研究拠点構想を作成した。</p> <p>共同獣医学教育開発推進センターが主体となって、各種アンケート結果、成績分布の分析等を総合的に分析し、共同獣医学教育カリキュラムの改善に向けた提言を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・応生シンポジウム資料 ・応生シンポジウム資料 ・各種アンケート、成績分布の分析 	
<p>基準6 学習成果</p> <p>6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。</p> <p>6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。</p>	<p>学習成果の向上に繋がった取組。</p> <p>学生による授業評価（5段階評価）が平均で前学期4.07、後学期4.05と高い評価を保持している。一方、シラバス記載の目標に対する達成度においても、「到達した」と回答（自己評価）する学生が60%以上である科目が約8割あり、学習成果が認められた。</p> <p>卒業時の意識調査より、満足度が90.6%と高い値であり、本学で学んだことにより一定の学習成果をあげていると学生自身が自己評価していると考えられた。</p> <p>岐阜県中央家畜保健衛生所との連携教育研究を実施し、毎月活動報告書にまとめて公表した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケート結果 ・卒業時アンケート結果 ・GeFAH 活動報告書 	
<p>基準8 教育の内部質保証システム</p> <p>8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。</p> <p>8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。</p>	<p>教育の質の改善に繋がる取組</p> <p>リフレクションペーパーを活用して、授業をわかりやすくするための工夫を共有した。</p> <p>シラバスに記載した内容及び成績評価について、教員に検証を要請し、112名中4名（3.6%）の教員がシラバスに課題を見出し、次年度のシラバスを改善すると回答した。</p> <p>同様に成績評価については、1名（0.9%）の教員が改善すると回答した。</p> <p>平成28、29年度に行った第三者教育評価委員会の評価結果を元に、抜本的な改革を図るため、将来に向け課題解決・改善を具体的に進めるための検討、将来構想に関する検討を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレクション結果 ・シラバス（授業内容/成績評価）点検報告書 	

平成30年度・応用生物科学部における教育改革（基準4、5、6、8関係分）

基準4 学生の受入

入学試験委員会 / 課程・学科

アドミッション・ポリシーに沿った入学試験が実施されているか検証 → 適正

平成31年度入学者200名 / 定員190名(定員充足率105.3%)

学部で実施する推薦入試・編入学試験のマニュアル検証 → 改訂

基準6 学習成果

岐阜県中央家畜保健衛生所との連携教育

修業年限内卒業率: 94.6% (H30)

獣医師国家試験合格率: 100% (H30現役)

自己点検評価委員会

学生による授業評価の学内公表 (H22 ~)

→ 平均4.07 (H30前期)、4.05 (H30後期)

→ 学習効果の高さ保持

アンケート調査 卒業時: 満足度91%(学部)

室長: 学部長
室員: 副学部長、事務長

教育
改善室

応用生物科学部
シンポジウム (H31.3.4)

「社会から期待され、
社会に貢献する学部を目指して」

学部・研究科内: 議論、情報共有
学部外に公開: 議論深化、外部評価

農学の教育研究拠点構想
名古屋大学の農学分野と連携

高度専門職業人養成像を元にした
本学部の将来構想

基準5 教育内容及び方法

教育改善室

各種アンケート(授業評価アンケート、教員アンケート)、
成績分布の分析、リフレクションペーパー
→ 検証 → 改善案の策定

共同獣医学教育開発推進センター

共同獣医学教育カリキュラムの改善

→ 各種アンケート(授業評価、カリキュラムアンケート、
教員アンケート、卒論実施方法アンケート)、成績分布
→ 検証 → 提言

シラバスの自己点検(内容・成績評価)

→ シラバスどおりの内容96%

→ シラバスどおりの成績評価99%

→ 非該当教員の理由聴取、改善へ

基準8 教育の内部保証システム

第三者教育評価委員会

応用生命科学課程・生産環境科学課程(評価 H28)

→ 将来構想WGでの改善策の検討(H29) → 答申

→ 答申にしたがい改善、改組検討

共同獣医学科(H29) → 客観的評価 → 答申(3月)

→ 課題解決・改善を具体的に進めるための検討